

令和3年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第7号
(9月の発生予想)

令和3年 8月31日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【大豆】

ハダニ類	量：並	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－～±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
マメシクイガ	量：並	① 前年の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
【防除上の留意事項】 9月の防除適期は第1～2半旬であるが、発生量や、薬剤の種類により時期や回数に違いがあるので、最新の「防除指針」を参照する。		
カメムシ類	量：並	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 各予察灯のクサギカメムシ累積誘殺数は平年比やや少ない～やや多い。(±) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)

【なし】

黒斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
黒星病	量：多い 程度：多発生 (発病葉率16～30%)	① 8月下旬の発生量は平年比多く、一部園地で甚～多発生園地が認められる。(＋) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
【防除上の留意事項】 秋期防除を徹底するとともに、多発生園では、落葉を集めて土中に埋めるなど、翌年の伝染源の低減を図る。		

<p>【作物名】 病害虫名</p>	<p>予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比</p>	<p>予報の根拠</p>
-----------------------	--	--------------

【なし】つづき

<p>褐色斑点病 (西洋なし)</p>	<p>量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率1～5%)</p>	<p>① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)</p>
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 発病果、病落果は放置せず、園外に持ち出し適切に処分する。 ② 落葉が始まっている園地では、落葉期を待たず、適宜落葉を収集して処分を実施し、作業労力の分散軽減を図る。 ③ 二次伸長枝は発病しやすいので、適切に剪除処分する。 ④ 秋雨期は重点防除時期に当たるため、散布間隔に留意し降雨前散布を徹底する。また、防除に当たっては薬液が新梢先端部まで十分かかるよう留意する。</p>		
<p>ナシヒメシンクイ</p>	<p>量：並 程度：少発生 (被害果率1～2%)</p>	<p>① 8月下旬のもの新梢被害の発生量は平年比やや少ない。(－) ② フェロモントラップの誘殺数は平年並～比やや多い。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)</p>
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 被害果は園内に放置せず、土中深く埋める等、適切に処分する。 ② 被害が見られる園では、フェロモントラップの誘殺状況を確認しながら、9月上旬の防除を徹底するとともに、新高、新興等の晩生品種では9月中～下旬に追加防除を実施する。薬剤防除に当たっては、収穫前日数に十分注意する。 ③ スピードプレーヤーによる薬剤散布は全列散布を行い、可能であれば縦横散布で防除し、かけむらのないよう留意する。</p>		
<p>モモシンクイガ</p>	<p>量：並</p>	<p>① 8月下旬現在、被害果は未確認。(±) ② フェロモントラップの誘殺数は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)</p>
<p>【防除上の留意事項】 ナシヒメシンクイの項を参照する。</p>		
<p>ハマキムシ類</p>	<p>量：並 程度：少発生 (被害葉率1～15%)</p>	<p>① 8月下旬の被害葉の発生量は平年並。(±) ② 主要加害種であるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップの誘殺数は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)</p>

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【なし】つづき

クワコナカイガラ ムシ	量：並 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 8月下旬現在、被害果は未確認。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
カメムシ類	量：やや多い 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 8月下旬現在、被害果は未確認。(±) ② 予察灯の誘殺数は平年並～多い。(±～+) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い 程度：甚発生 (発病葉率51%以上)	① 8月下旬の葉の発生量は平年並だが、各地で甚～中発生園地が認められる。(＋) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 ① 9月上旬以降、収穫後速やかに秋期防除を実施する。発生園地では10月中旬までに概ね2週間間隔で2～3回防除し、越冬菌量の低減を図る。 ② 台風等で落葉した場合は、落葉痕からの感染が多くなるので、台風通過前に防除を実施する。	
モモハモグリガ	量：やや少ない 程度：少発生 (被害葉率1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(±～－) ② フェロモントラップの誘殺数はやや少ない～平年並。(－～±) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 収穫後にも園内を観察し、発生の多い場合は薬剤防除を行う。	

【ぶどう】

晩腐病	量：並 程度：少発生 (発病果房率1～10%)	① 8月下旬の発病は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 発病果粒は見つけ次第取り除き、二次感染の抑制を図る。	
べと病	量：少ない 程度：少発生 (発病葉率1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 大粒種で発生が多い場合は棚上散布を行うとともに、収穫後にも防除を行う。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【ぶどう】 つづき

褐斑病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率 1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
-----	-----------------------------------	---

【かき】

円星落葉病	量：多い 程度：少発生 (発病葉率 1～10%)	① 8月下旬現在、発病葉は平年比多い。(＋)
すす点病	量：並 程度：少発生 (発病果率 1～5%)	① 8月下旬現在、被害果の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
チャノキロアザミウマ	量：多い 程度：少発生 (発病果率 1～2%)	① 8月下旬現在、被害果は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
カメムシ類	量：やや多 程度：少発生 (発病果率 1～2%)	① 8月下旬現在、被害果は未確認で平年比やや少ない。(－) ② 予察灯の誘殺数は平年並～多い。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)

【だいこん】

モザイク病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1～20%)	① 前年の発生量は平年並。(±) ② 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ③ ウイルスを媒介するアブラムシ類の発生は平年並と予想される。(±)
べと病	量：並 程度：少発生 (発病度 1～15)	① 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
黒斑細菌病	量：並 程度：少発生 (発病度 1～15)	① 前年の発生量は平年並で、伝染源量は平年並と推測される。(±) ② 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
白さび病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1～20%)	① 前年の発生量は平年並で、伝染源量は平年並と推測される。(±) ② 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (発生程度指数 1～50)	① 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【だいこん】 つづき

コナガ	量：並 程度：少発生 (寄生株率 1~10%)	① 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ② 8月のフェロモントラップの誘殺数は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
-----	-------------------------------	--

【夏秋きゅうり】

べと病	量：並 程度：少発生 (発病葉率 1~25%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
うどんこ病	量：やや少ない 程度：中発生 (発病葉率 26~50%) 【防除上の留意事項】 ほ場間で発生程度に差が見られる。発病葉は早めに除去するとともに、 早期防除を心掛ける。	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温と降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
褐斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率 1~5%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (一葉当たり寄生虫数 1~10頭)	① 8月下旬の寄生虫数は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
ハダニ類	量：やや多い 程度：少発生 (寄生葉率 1~2%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや多い。(＋) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
コナジラミ類	量：並 程度：少発生 (成虫寄生葉率 1~30%)	① 8月下旬のオンシツコナジラミ発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
アザミウマ類	量：やや多い 程度：少発生 (寄生葉率 1~5%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや多い。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
ハモグリバエ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率 1~25%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
ワタヘクロノメイガ (ウリノメイガ)	量：やや少ない 程度：少発生 (寄生株率 1~20%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【秋冬ねぎ】

さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1～5)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
黒斑病・葉枯病	量：やや多い 程度：少発生 (発病度1～20)	① 8月下旬の発生量は平年やや多い。(＋) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
軟腐病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病株率1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
ネギハモグリバエ	量：少ない 程度：中発生 (被害度11～20)	① 8月下旬の発生量は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
ネギアザミウマ	量：並 程度：甚発生 (被害度31～)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 薬剤防除は作用機構の同じ薬剤の連用は避け、作用機構の異なる薬剤をローテーション使用して抵抗性の発達を防ぐ。一部の薬剤に感受性低下が認められるので、最新の防除指針を参照する。</p> <p>② 収穫が近く発生が多い場合は、収穫30日前頃から7～10日間隔で3～4回薬剤散布する。なお、使用基準の収穫前日数に注意して、薬剤選定する。</p>		
ネギコガ	量：並 程度：少発生 (被害株率1～25%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
シロイチモジヨトウ	量：多い 程度：少発生 (被害株率1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年比多い。(＋) ② フェロモントラップの誘殺数は平年並から多い。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

【その他】

【野菜・花き類全般】 オオタバコガ	量：並～やや少ない	① フェロモントラップの誘殺数は、平年並～やや少ない。(±～－) ② 向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
【大豆、果樹・野菜・花き類全般】 ハスモンヨトウ	量：並～やや多い	① フェロモントラップの誘殺数は、平年並～やや多い。(±～＋) ② 向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病虫害雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。
②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。
注2： 「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：6月1日～8月31日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病虫害防除所業務課

電話：0258-35-0867

FAX：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1か月予報（8月28日から9月27日までの天候見通し）
 （新潟地方気象台：令和3年8月26日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並の確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。

2週目は、平年並の確率50%です。

3～4週目は、平年並の確率40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	30	40	30
降 水 量	40	30	30
日照時間	30	30	40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1週目（8月28日～9月3日）	30	50	20
2週目（9月4日～9月10日）	20	50	30
3～4週目（9月11日～9月24日）	30	40	30